

架け橋期のカリキュラム作成の考え方

期	1年生（4月～5月上旬）
発達の様相	・学校生活への期待や新たな環境への不安を感じる時期。 ・担任の教師への親しみをもち、新たな友達との人間関係が形成される時期。
幼児・児童の姿	※4月当初の予想される児童の姿 ・学校生活への期待もあるが、緊張感や不安が高く、担任に甘える姿も見られる。 ・先生や新しい友達に関心をもち関わろうとするが、自分の思いをうまく伝えられないこともある。 ・初めて行う勉強や学校のルールに早く慣れたいと、自分なりに頑張る姿が見られる。
ねらい	キーワードは「安心」「見通し」 ○新しい先生や友達が好きになり、明日も学校へ行きたいと思うようになる。 ○学校生活の流れを知り、幼児期の経験を生かしながら生活しようとする。 ○困ったことやしてほしいこと、思っていることを言葉で伝えようとする。
大切にしたい経験	・クラスの友達に興味をもち自分の好きな遊びを通して交流する。 ・学校の様子や生活の仕方が分かる。 ・幼稚園で経験したことを学習や生活に生かせることに気付く。 ・安心して自分の思いを表現したり、友達の思いを聞いたりする。
環境の構成 （場や空間、物、時間等）	・楽しく安心して小学校生活を送れそうという見通しがもてるように、朝の時間から1時間目までゆとりのある時間を設定する。 ・安心感がもてるように、児童が興味のありそうな絵本や折り紙などを用意したり、園で慣れ親しんだ歌や手遊び、読み聞かせ等を取り入れたりする。 ・生活の流れや学習の見通しがもてるように、写真やカード等でやるべきことを視覚化したり、実際に使う教材を掲示したりする。
先生の援助	・児童の緊張や不安に寄り添うとともに、緊張や不安からくる行動を受け止めるようにする。 ・先生が自分のことを知っているという安心感がもてるように、一人一人の名前で呼ぶように努める。 ・初めての学校、慣れない環境で不安になると思うので、こどもが嫌な思いをしないように配慮し、こまめに声をかける。 「分からない時は、聞いてくださいね。」
主な行事や活動	・入学式 ・一年生を迎える会

ステップ3
「ねらい」を達成するために大切にしたい経験を示す（必要に応じて修正）

ステップ1
・発達の様相を踏まえて、それぞれの期の当初の幼児・児童の姿（実態）を示す

ステップ2
・幼児・児童の姿（実態）を基に、キーワードとこの期のねらいを設定する（必要に応じて修正）

ステップ4
・「大切にしたい経験」ができるように支援を考える
・間接的な環境としての支援（環境の構成）と直接的な支援（先生の援助）に分けて示す